

Chat seeds との意見交換会で寄せられた意見について（令和5年12月協議）

（テーマ）

- ・小・中学校の不登校の現状について

No	Chat seeds からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	<p>不登校生徒の対応は、リモート授業や出られる授業だけ出席できるようにするなど、個に応じて柔軟に行ってほしい。また、不登校に関して教職員の理解を深め、対応に差が出ないようにしてほしい。</p>	<p>リモート授業については、保護者と本人に確認の上、個に合わせた対応を実施しています。友人と顔を合わせることに抵抗のある児童・生徒には、放課後登校での対応や、中学校においては部活動からの対応も行っています。</p> <p>不登校に関して教職員の理解を深め、対応に差が出ないように、市で作成した不登校対応マニュアルを基に、本人、保護者に寄り添った対応を行うようにしています。また、各学校において、県より派遣されているスクールカウンセラーを講師に研修会を行い、理解を深めることについても努めております。</p>
2	<p>フリースクールや放課後デイリースクールの費用補助等を行い、学校以外での居場所づくりにも積極的に取り組み、保護者と情報共有してほしい。</p>	<p>不登校児童・生徒の対応をされている専門機関、フリースクール、不登校の児童・生徒を持つ保護者の方たちで組織する各種団体と情報交換に努めています。今後、費用補助等や学校以外の居場所づくりについても、多方面から御意見をお伺いし、より研究していきます。</p>

かなざわ食マネジメント専門職大学との議会報告会で寄せられた意見について（令和5年12月協議）

（テーマ）

- ・ 住み続けたいと思うまちづくり

No	かなざわ食マネジメント専門職大学学生からの 主な意見	常任委員会での協議内容
1	アーバンスポーツができる施設があるとよい。	<p>アーバンスポーツの協会等が設立されるなど、組織化された後に活動がさらに活発になり、機運が一層盛り上がっていくことで、施設整備や教育的効果、スポーツツーリズムへの活用といった次の展開が期待できると考えています。</p> <p>施設整備においては、騒音対策や安全対策の配慮が必要であり、どこにでも整備できるものではないことから、市協会等の組織化された団体に考えをお聞きしたうえで、場所や規模、施設の形態といった具体的な事柄が検討されていくものと考えています。</p>

今、いまを大切に未来につなぐ imaima・との意見交換会で寄せられた意見について（令和5年12月協議）

（テーマ）

・学校給食・食の安全について

No	今、いまを大切に未来につなぐ imaima・からの 主な意見	常任委員会での協議内容
1	トキを放鳥できるような環境をつくらうとする 県の取組を考えたら、ジオパークの世界認定を受け た白山市が環境保全としての有機栽培や有機給食 を勧めないのはおかしいと思う。市が農業、教育、 市民生活に対してオーガニックで行くというグラ ンドデザインを掲げて（総合計画に入れて）、それぞ れの分野が具体的なプランを立てていってはどう か。	①本市の学校給食は地元産食材を多く 使用することを心がけています。特にお 米については、通常の学校給食では二等 米のところを、地元産コシヒカリ一等米 を使用しています。有機給食への具体的 なプランについては、関係機関と協力し ながら、できるところから取り組んでい きたいと考えています。 ②国が「みどりの食料システム」戦略を 策定し、その中で化学肥料や化学農薬の 使用量の削減や有機農業の取組面積の拡 大などを目標に掲げています。これを受 け、県では令和5年3月に本市をはじめ 県内全市町と共同で「石川県環境負荷低 減事業活動の促進に関する基本方針」を 策定し、環境保全型農業を推進していま す。具体的なプランについては、総合計 画の関連計画である総合戦略に数値目標 を掲げ、環境保全型農業の取組面積の拡 大を図っています。
2	オーガニック認証の食材を使用するのはハード ルが高い。オーガニック性の高い食材でもよしとな るよう、市独自の認証基準を設けることができない か。	J A S 法に基づく有機 J A S 認証のほか、化学肥料及び化学合成農薬の使用を 5割削減して作られる県の特別栽培農産 物認証、さらには3割削減したエコ認証 （現みどり認定）の制度がある中で、市独 自の認証制度については、先進地の事例 や現制度の課題、J A や農業者などの御 意見を聞きながら、調査・研究したいと考 えています。

金城大学との議会報告会で寄せられた意見について（令和5年12月協議）

（テーマ）

- ・住み続けたいと思うまちづくり

No	金城大学学生からの主な意見	常任委員会での協議内容
1	<p>保育士として働くのにあたって、人間関係や保護者の対応など不安がある。悩みごとを相談しやすい体制があるとよい。</p>	<p>白山市の保育所などでは、職員同士が気軽に話し合い、保育について語り合える風通しのよい職場づくりを目指しており、毎日の朝礼などでの連絡や、同僚、クラス担任同士のミーティングなど、保育士間の情報共有ができる体制をとっています。また、個別で不安な悩みがあったときは、同僚やクラス担任だけでなく、経験豊富な園長、主任に気軽に相談できる環境づくりにも努めてまいります。</p>
2	<p>ジオパークが世界認定されたので見て回りたい。学生でも気軽に参加できるようなツアーやイベントを増やすことはできないか。また、情報発信も積極的に行ってほしい。</p>	<p>令和6年に4回開催を予定している「大人のジオ遠足」については、学生の方々をはじめ、より多くの方が気軽に参加できるよう、バスなどの費用は市で負担し、体験料や昼食代などの実費のみ負担いただいています。</p> <p>また例年、白山手取川ジオパークの公認観光ガイド養成講座を金城大学で開催しており、令和5年度受講者が21名のうち大学生は6名です。この講座では、現地研修やツアー造成なども行っており、学生の方々に同年代向けのツアーを御提案いただくなど、若い視点でジオパーク活動に主体的に取り組んでもらえるよう工夫していきます。</p>